

幼保小接続の現状と課題

1 要 旨

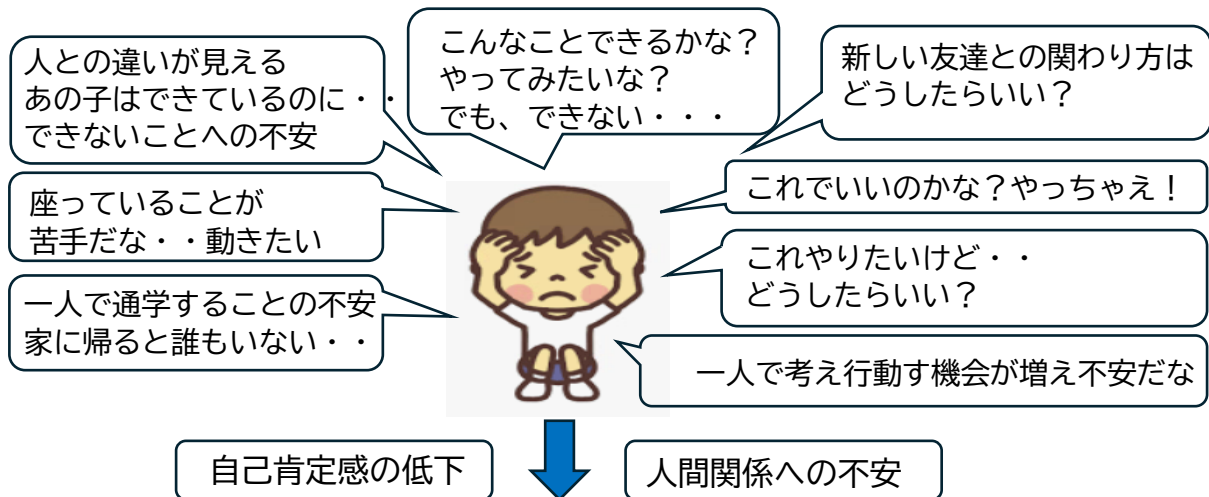
「小1プロブレム」が静岡市で課題になっている。こどもたちが、環境の違いや発達に課題を抱え、支援を受けないまま入学することで、就学前施設での生活と小学校での生活のギャップに適応できず、さまざまな問題行動が顕在化している。こどもたちの生活や学びの基盤を保障するためには、幼児期と児童期の教育を円滑に接続し、組織的に支えるための取組が必要となる。

2 現 状

(1) 就学前施設的环境と小学校の環境に違いがあるため、その変化に対応できないこどもがいる。

①小学校でこどもが困っている状況

- ・ 学習活動や集団生活のルールにうまくなじめない。
- ・ 落ち着いて授業を受けられない。
- ・ 教師の話を聞けずに歩き回る。



- ・ 先生の言うことを聞いて言われたとおりにする子がいい子？
- ・ 話をだまっておく、無駄なおしゃべりしない子がいい子？
- ・ みんなと同じ行動をして別のことをしない子がいい子？
- ・ いつも穏やかで機嫌がいい子がいい子？



教師の悩み

- ・ 学習支援への対応
時間に合わせて行動できない子への対応
- ・ 保護者からの期待
こどもへの期待とこどもの現状とのギャップ
- ・ こどもとの関係づくり
- ・ 保護者対応



保護者の悩み

- ・ 授業についていけるか不安
- ・ 家庭学習
- ・ 先生との関係
- ・ 集団生活への不安
- ・ 友達関係への不安
- ・ 登下校の安全
- ・ 生活習慣

②「小1 プロブレム」が起こる原因

就学前施設的环境と小学校の環境に違いがあるため、その変化に対応できない。



就学前施設的环境と小学校の環境の比較

	就学前	小学校入学後
教育課程・時間管理の変化	遊び中心 ・遊びを中心とした経験カリキュラム ・幼児期以降の教育の方向づけを重視（～を味わう、～を感じる） ・興味や関心、生活の流れや経験の重視	学習中心 ・教科等の学習を中心としたカリキュラム ・各教科等の区別がある ・具体的な目標への到達を重視（～ができるようになる） ・時間割に基づき課題をもって学習
指導の方法・活動の内容の変化	・環境を通して行う教育 ・幼児の生活や体験からの学び、自発的な活動を重視 ・保育者がこどもの活動に沿ってねらい・内容を設定し、こどもが「～ができる」ことを目標とするのではなく、体験することをねらいとしている ・一人一人の活動に沿って柔軟な指導	・複数の教科を組み合わせた合科的・関連的な指導、個に応じた指導、問題解決的な指導 ・学級集団を基本とする単位時間ごとのねらいに即した効果的指導 ・教科等の目標や内容に沿って、単元や教材が選択され、学習活動を展開 ・共通課題をもって活動することが多い
学びの特徴	学びの芽生えの時期 ・楽しいことや好きなことに集中し、様々なことを学ぶ ・遊びを中心として、頭も心も体も動かして様々な対象と直接関わりながら、総合的に学んでいく	自覚的な学びの時期 ・学ぶということへの意識をもち、集中する時間とそうでない時間（休息の時間等）の区別がつき、自分の課題の解決に向けて、計画的に進んでいく ・各教科等の学習内容について授業を通して学んでいく

③現状の施策

就学前施設的环境と小学校の環境に違いはあるが、円滑に接続するため行っていること。

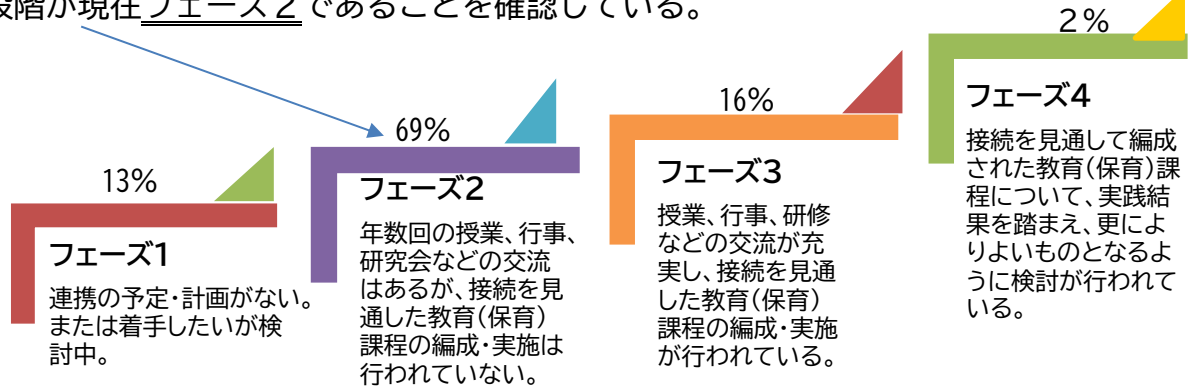
目 標	「静岡市のめざす子どもの姿 たくましく しなやかな 子どもたち」(第3期教育振興基本計画)	
目 的	<幼児教育> 幼児期に育まれた学びの芽生えを、さらに次の発達段階につなぐことができる	<小学校教育> 小学校へ入学したこどもが幼児期に育んだ学びを基盤として主体的に、自分が身に付けた力を発揮しながら学びに向かうことができる
取 組	(1) こども同士の交流 ・就学前施設の行事に1年生を招待する ・5歳児が小学校の授業を参観する (2) 職員の交流 ・就学前施設と小学校による参観及び協議 - 公開授業実施校 76校/81校 93.8%(R6年度) ※未実施校は、小学1年生がいない。地域一般公開と兼ねて実施している。別の形態で実施している。 - 公開保育実施園 152園/182園 83.5%(R6年度) ※未実施園は、園体制が整っていない。幼保小接続の必要性の理解がないため公開しない。等 ・合同研修会 ・幼保小合同研修会 「こどもの育ちと学びをつなぐ研修会」 (3) 接続に向けたカリキュラム編成 ・アプローチカリキュラム「5歳児後半のカリキュラム」(全市立園作成) ・スタートカリキュラム「1年生入学当初のカリキュラム」 (81校中、小学1年生不在校を除く76校作成) 小学校での実施状況 →幼児期に親しんできた遊びなどを取り入れている(71校/76校 93.4%) →単元または1コマの中で、複数の教科の目標を組み合わせた合科的な指導を行っている(60校/76校 78.9%) →各教科等の指導の時期や方法を工夫し関連的な指導を行っている(73校/76校 96.0%) ※未実施校があるのは、実施において重視している点が異なるため (4) 「幼小接続会議」 ・参加者 小学校長、市立こども園長、私立幼稚園長、私立保育園長、私立こども園長、こども園運営課、幼児教育・保育支援課、学校教育課 ・目的 小学校、市立こども園、私立幼稚園・私立保育所・私立こども園の代表者の話し合いにより、静岡市の幼児教育と小学校教育の円滑な接続で目指すこと、各組織の取組について検討する	

④静岡市の就学前施設における幼保小接続の現状と分析

R6年度「幼小接続会議」事前アンケート資料（就学前施設 152 園回答結果）による。

※フェーズは、文部科学省「幼児期の教育と小学校教育の円滑な接続の在り方について」による。

このアンケート結果から、R6年度「幼小接続会議」において、静岡市の幼保小接続段階が現在フェーズ2であることを確認している。



- ・フェーズ2は、就学前施設と小学校が、情報共有したり行事を通じて交流したりすることであり、こどもの学びはつながっていない。

(2) 発達課題を抱えながらも、支援を受けないまま就学することもいる。

①市立こども園における支援を受けるための面接を受けたこどもの数

(満3歳以上の小学校就学前のこども)

支援を必要とするこどもが増えている。

実施年度	人数
R3年度	175人
R4年度	183人
R5年度	193人
R6年度	208人

面接を受け、配慮が必要だと判定された場合は、保育教諭を増員している。

②乳幼児健康診査（以後「健康診査」の表記は「健診」とする）

- ・発達に不安を抱える幼児への早期の教育相談や就学の場合への情報提供が不十分である。
- ・3歳児健診から就学時健診まで健診がなく、支援が必要なこどもの発見や専門機関へ働きかけるきっかけがない。

0歳				1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳
乳幼児健診	新生児聴覚検査	1ヶ月児健診	4ヶ月児健診	10ヶ月児健診	1歳6ヶ月児健診	3歳児健診	5歳児健診	就学時健診	

R7.10～モデル園にて実施

3 課 題

- (1) 就学前施設は「5歳児後半のカリキュラム」、小学校は「1年生入学当初のカリキュラム」の作成をそれぞれ行っているが、接続を見通した教育（保育）課程の編成・実施は行われていない。
幼児期のこどもの体験や育まれた力を小学校で生かすための環境が十分に整備されていない。
- ①遊びを通じた学びであるという幼児教育の特性を、小学校を含む社会の認識が十分されていない。
- ②教育課程の接続を踏まえた「架け橋期のカリキュラム作成」ができていない。
 ※架け橋期のカリキュラム
 「架け橋期」（5歳児から小学校1年生までの2年間）の教育の充実を図るため幼保小の職員が、共通の視点を持ちながら、相互の教育内容や教育方法の充実を図るため、協働して作成するもの
- (2) 発達課題を抱え支援を受けずに入学したことにより、就学前施設の生活と小学校での生活のギャップに適応できず、様々な問題行動が顕在化している。また、小学校入学当初、小学校での学習や生活に関する戸惑いや悩みを抱え込み、学習や生活に支障をきたすこどもがいる。それらのこどもに対する幼保小の接続がスムーズに行われていない。
- ①妊娠・出産から子育てまでの広い範囲で切れ目が起こらないための支援体制や特別な支援が必要なこどもの早期発見の場（5歳児健診等）が整っていない。
- ②就学前施設と小学校の接続を目的として行っている「幼小接続会議」において、就学前施設と小学校の協議の場になっているが、幼保小接続につながる効果的な体制が整っていない。
- ③就学前施設の幼稚園及びこども園から、小学校に「園児指導要録」（こどもの学籍と成長の記録）が引き継がれているが、こどもの良い面を中心に記載されているため、発達課題に対しての活用がされていない。

4 視 点

- (1) 就学前施設の環境と小学校入学後の環境を円滑につなげていくために、接続を見通した教育課程の編成・実施をどのようにしたらよいか。
- (2) 特別な支援が必要なこどもの早期発見や、発見された発達課題を小学校でどのように活用していけばよいか。